

広報委員会 国内外情報発信強化分科会  
(第25期第1回) 議事概要

1. 日 時 令和3年1月27日(水) 10:00~12:00
2. 場 所 オンライン開催
3. 出席者 日比谷委員、狩野委員、神田委員、北川委員、三枝委員、岸村委員  
(説明者) 菱田 副会長(広報委員会委員長)
4. 議 事
  - (1) 役員の選出について
    - ・委員長の互選を行い、狩野委員を選出した。
    - ・狩野委員長が副委員長として岸村委員を指名し、承認された。なお、幹事については、現時点では置かないこととした。
  - (2) 分科会の活動方針と内容について
    - ・狩野委員長より、本分科会に任務について、学術会議の情報発信について足りない状況を改善するための検討を行う旨説明がされ、意見交換を行った。
  - (3) 若手アカデミーからの提案について
    - ・説明者の菱田副会長より、日本学術会議の在り方に関する意見概要について説明がされた。

(意見交換)

○外部への情報発信について

- ・誰にどういう風に伝えていくかのターゲットングが重要であり、まずは「日本学術会議」という名前と、何をやっている組織であるかが一致するような発信が必要。そのためには学協会との連携も重要である。
- ・情報発信に当たっては、対象とする階層に合わせた発信が重要。
- ・充実したウェブサイトを作り、何をしているかを知らせること必要。先日、学術会議 Q&A を作成してホームページに掲載した。
- ・ホームページは重要な要素であるが、それもアクセスしてもらわないとわからないので、外に向けてPRしていくことが重要。現在、記者会見を定期的にやっているがそのようなことが重要だと思う。
- ・情報発信に当たって、インパクトを出すならテーマを絞る必要がある。ある頻度でインパクトのある情報を本人から説明することはあってもよいと思う。
- ・各部から多くの提言が発出されているが、リストを見ても膨大でよくわからない。学術会議としての推しがよくわからない。インパクトを出すために、社会が期待する提言を作るというセンスは重要。
- ・学術会議 Q&A はもっとなじみやすくする必要はあるが、学術的正確性を求めると一般市民からは分かりにくくなるので正確性と分かりやすさのバランスが課題
- ・学術会議のホームページに行けば科学のトレンドがウォッチできるなど、ニュースサイトのように見ることができれば理想的。日常的に更新できるコンテンツであれば検索時にヒットされる。
- ・学術会議としてオンラインイベントのチャンネルを公式に一つ作っておく方がよい。提言の公表

時も提言のポイントについて口頭で説明すれば、提言の普及の観点からもよい。

・学術会議ホームページに「おもしろ情報館」というページがある。ほとんど更新されていないため掲載内容は古いが、非常にわかりやすい雰囲気が出ていて、今でもアクセス数が高いそうだ。ここをアップデートしてもよいと思う。

## ○国際

・国際学術団体の窓口の役目をはたしているグループが数多くある。この方々は学術会議に国際学術団体への拠出金を求めた責任もあるので、非常に活動に熱心。世界のアカデミーと比べ、日本が弱体化しては困るという視点で、この窓口はしっかりと維持・強化する必要がある。

## ○学術会議内部・学協会への情報発信

・連携会員の任命前の候補者の段階で、その方の活動をよく確認したうえでメンバーになっていただき、任命後にも、連携会員として何をすべきか十分に伝える必要がある。

・会員や連携会員が何をすべきかわからないということをなくすことが重要。役員会の考えを速やかに会員などに伝えることについては内部の話なので手を付けやすいのではないか。

・学術会議内部の情報については、部長から委員長には行くが、そこから先の委員長と分科会の間でのコミュニケーションが弱いように感じる。学協会を含めた内部の情報伝達の機能をしっかり作っていく必要がある。

## ○その他

・学術会議の在り方の検討の中で広報に関係するものがいくつかある。内部で改革しないといけないこともある。2月いっぱいまでに意見を纏めていただければと思っている。全体のコ・オペレーションの部分、学術会議の組織形態についても意見があれば御意見いただきたい。